

## この物語に登場する人・モノ・場所

## モドキ

主人公のモドキは、川越市で里神楽に取り組んでおられる「梅鉢会」の神楽師・白石信人さんが演じています。モドキとは真似をするの意味。神楽の登場人物。身に着けているお面も実際の神楽で使われているものです。

[里神楽梅鉢会](#) [Instagram](#) [Facebook](#)



## ヤギ



旅の道連れとして登場するのは、熊谷市のソーシャルファーム「埼玉福興」で飼われている子どものヤギさんです。

撮影現場までの運搬や現場でのお世話は、毛呂山町の「ヤギワールド」が担当してくださいました。

[埼玉福興\(株\)](#) [X \(Twitter\)](#)

## ロケ地



第1章（水の章）の舞台となったのは、川と用水路に囲まれたまち八潮市。八潮市周辺では豊富な水を利用して古くから染色業が栄えてきました。モドキが辿り着いたのは、100年以上に渡って伝統的な藍染の技法を守り続けてきた「相澤染工場」です。藍染職人の相澤沢哉さんにもご出演いただきました。



[\(有\) 相澤染工場](#)

[Instagram](#) [X \(旧Twitter\)](#)

## 身につけているモノ

モドキが履いている**足袋**は、かつて「日本一の足袋のまち」と呼ばれた行田市で足袋作りを続けている「イサミコーポレーション」による「イサミタビ」です。ひとつひとつ丁寧に手作りで作られています。



[\(株\) イサミコーポレーション](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)



モドキが羽織った**半纏**は、ロケ地でもある「相澤染工場」（八潮市）で、伝統的技法によって作られた藍染の半纏です。

[\(有\) 相澤染工場](#)

[Instagram](#)

[X \(旧Twitter\)](#)

## ザリガニ



旅の途中でモドキが出会ったザリガニは、吉川市にある「街のミニ水族館しおや」で展示されているザリガニたちです。吉川市に生息する川魚のみを収集して展示している珍しい私設のミニ水族館です。

物語の中で、ザリガニは青く染まってしまうますが、この青いザリガニも、この水族館で飼育されているザリガニです（青く染めたわけではありません。）。物怖じしないザリガニたちの演技力に、現場スタッフも感心しきりでした。

[街のミニ水族館しおや](#)

